

**生物産業学特別総合演習**（4単位）

担当者氏名 小栗 秀、吉田 穂積、亀山 祐一、寺澤 和彦、相馬 幸作、中村 隆俊、平山 博樹、渡邊 研一、白井 滋、  
塩本 明弘、小林 万里、千葉 晋、瀬川 進、松原 創、丹羽 光一、佐藤 広顕、中川 純一、藤森 嶺、  
渡部 俊弘、戸枝 一喜、久保田紀久枝、相根 義昌、遠藤 明仁、長澤 真史、菊地 哲夫、黒滝 秀久、美土路 知之

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の領域で活躍できる能力を修得させることを教育・研究上の目的とする。原則として3年以上在学し、専修分野の1つを選択し、博士論文の研究指導を受ける。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

生物資源	バイオテクノロジー	食品加工	経営・経済
文理融合	領域横断性	北方地域	

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1-5 回	研究テーマの位置付け	各自の研究テーマを見つめ直し、その意義を問う。	各自の研究テーマが、該当分野において、どのような位置付けにあるのか、考えておく。
6-10 回	研究分野の理解	各自に関わる研究分野と学会が社会に果たす役割を考える。	各自が関わる研究分野と学会が社会に対し何を発信してきたか調べ、自己のテーマをその延長にどのように位置付けるかを想定する。
11-15 回	自己の分野と異分野あるいは社会との関わり	各自または研究室としての研究テーマが、大きく異なる他の研究分野または一般社会に対し、どのような影響を及ぼすか議論する。また、異分野との共同研究案も考えてみる。	各自の研究テーマが、当該分野以外に対し、どのような影響を及ぼすか、考えておく。
16-30 回	調査または実験の企画と実施	研究テーマに対する仮説の検証のため、調査・実験を開始する。	調査方法や実験技術について考案、または予習しておく。
31-45 回	再現性の確認、追試の検討	実験または調査について、偶発性を排除するための確認を行う。	起こりうる偶発性について考慮しておく。
46-60 回	調査または実験結果の発表	外部機関や学会等で発表できる形のプレゼンテーションを作成する。	聴衆に応じたプレゼンテーションを考えておく

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

自己の研究テーマに関連する教科書を指導教員とも相談の上選択。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

とくになし

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

レポートや論文などの提出物による評価。

◆オフィスアワー

各教員に確認してください。

◆その他受講上の注意事項

各自の指導教員とよく連絡をとるように。